土木学会・土木計画学研究委員会
施工情報システム小委員会
第２回研究討論会討論・資料集　昭和59年11月

原価マネジメント研究における現状認識の概要

京都大学工学部　春名　攻
京都大学研究員（フジタ工業㈱）　池田將明

１．はじめに

日本の建設業界は，昭和30年代から40年代にかけての経済復興にともなう建設需要の拡大により，拡大増加の一途を辿ってきた．しかし，昭和40年代後半に起ったニクソンショックやオイルショック以来，建設業を取り巻く経営環境は大幅に変化してきている。それは，経済成長の鈍化による民需の低迷や，公共投資の削減，および日本経済の質的な変化（３次産業化）などによる質・量ともの大幅な変革となっている。そこで，この事態に対応するために今後建設企業においては，①生産性の向上②組織の柔軟化③技術の高度化の３点を十分に検討しておく必要があると考える。

現在筆者らは，建設業における生産活動の中心である建設現場において遂行されている原価計画や原価管理に着目して，生産性の向上という観点からその現状や機能およびそのあり方をシステム論的に研究しており，建設業における原価概念の確立を目指したいと考えている。ここでは，本研究における基本的な現状認識の概要について述べたいと考える。

なお，この原価計画と原価管理を合せた概念は，一般的に広義の原価管理と呼ばれているが，建設現場で行われる狭義の原価管理と混同しやすいこともあるので，ここでは原価マネジメントと呼ぶこととする。

２．原価マネジメントの現状

(1)財務会計と管理会計

一般に言われるように，建設会社における原価計算制度には財務会計制度と管理会計制度がある（図-1）。しかし，税法上の必要から古くから行われてきた財務会計制度とは異なり，工事一件ごとの原価をより厳しく管理する管理会計制度が整備されたのはそれほど古い事ではなく，このため両者が混同されて扱われる場合が多い。

(2)建設工事における原価マネジメント

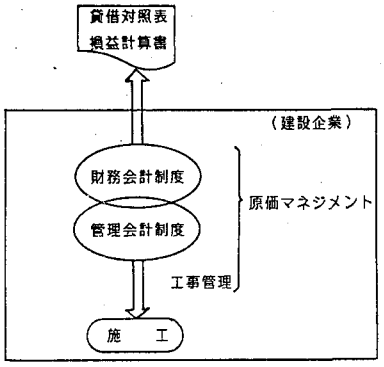

図-1　財務会計と管理会計

本研究で研究対象と考えている建設工事の原価マネジメント業務は，一般的に図-2のような個別工事の流れとして表わされている。この流れは主に，本支店レベルにおける原価マネジメント業務を表わしいるが，ここでの特徴は，現場での原価管理の評価基準となる実行予算の設定法にある。

この実行予算は，一件一件の工事が場所を異にし内容を異にするという建設工事の特性から，代価表からの積上により算出されるのが一般的であるが，細部での余裕が累積されるという問題点があるため，最近ではこの実行予算を目標予算として大枠で設定し，その可能性を細部の科目で検討する方法がとられる場合が多くなっている。

(3)建設現場における原価マネジメント

建設現場で行われている原価マネジメントについて見ると，おおよそ図-3のようであると考えられる。この図で示した原価マネジメントサークルの特徴は，①個別工事の原価管理サークルの中に，財務会計処理が加わっている②財務会計処理された要素別データを工種別に組替えている③常に目標原価と実績原価との差異が詳細に分析され，これにより常に原価低減措置が検討・実施される。

３．原価マネジメントの問題点

建設業は他の製造業とはことなり数々の特異性を

備えているために，原価を計画・管理する上ではまだ数多くの解決困難な問題点が存在する。

(1)工事原価設定の問題点

①土木工事には不確定要因が数多く存在するために，工事原価を積上方式で算定すると，どうしても余裕が累積されることとなる。

②標準原価を個人の経験で補正して使用するために，見積られた工事原価の信頼性にバラツキが生じる。

(2)原価計算制度上の問題

①工事原価管理制度が財務会計制度の影響を強く受け，両者が混同されている部分が多く見受けられる。

②現在の原価管理制度では，そのベースとなる工程計画との関連が明確にされていない。

(3)実績評価の問題点

①評価の基準となる実施原価が信頼性に欠けるため，これを基準とした評価が意味をなさなくなる。

②このために，月末や年度末あるいは工事完了時における損益結果だけでその工事を評価する結果となり，「最終結果でつじつまが合えばいい。」といった安易な原価管理意識を生む結果となるし，またいかに努力しても結果がおもわしくないと評価されず，これにより原価管理意識を低下させる弊害を生じさせることにもなる。

(4)生産体制上の問題

①生産の重層構造（元請－下請－孫請）における責任関係が不明確である。

②契約内容に不確定要因が多いため，契約を厳密に提携出来ない場合が多いし，また厳密に契約しても弱小の下請業者ではそのリスクを背負いきれない場合が多い。

③労働者による生産効率のバラツキは機械に比べ非常に大きく，これが工事計画作成に利用する労務歩掛りを不確定要因の一つにする原因ともなっている。

(5)実施データ利用の問題

①施工実施データの記録はされているが，そのデータが有効に活用されていない。

②最終結果だけの評価に終始するために，そこに至る過程の科学的分析をする努力が払われていない。

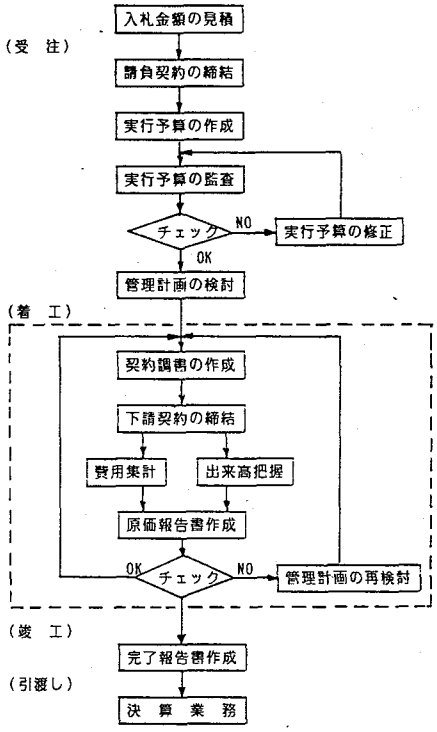

図-2　原価マネジメントの流れ

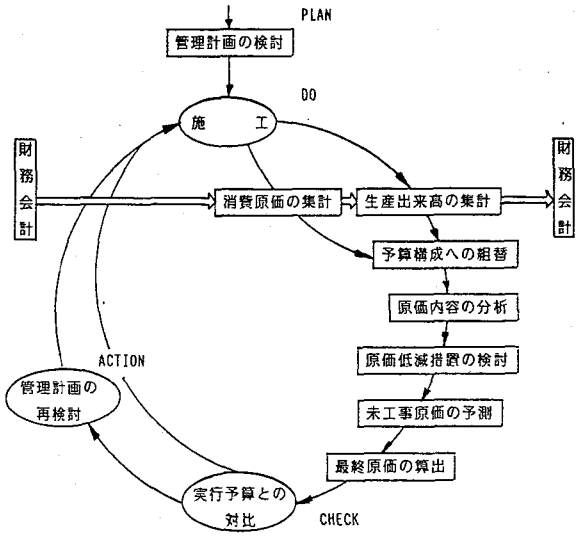

図-3　建設現場における原価マネジメント

4．おわりに

今後本研究では，詳細な現状分析と生産性向上の視点からの原価概念の確立に重点を置き，その後にシステム論的な考え方で実験システム設計・開発から運用実験・評価・修正に進みたいと考えている。